

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部 平成29年度事業報告

平成29年度は、これまでの3年間の運動の成果を踏まえ、それぞれの取組を深化させるとともに、推進本部及び地方推進本部を構成する各機関・団体と連携を強化しながら、生産、流通、消費の各分野が一丸となり、本県農林水産業の復興・再生に向けて、「食の安全・安心運動」、「生産再生運動」、「風評払拭・消費拡大運動」、「情報発信運動」の4つの運動を展開しました。

1 共通事項

○ 推進本部総会等の開催

平成29年度の「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動推進本部総会」は書面開催とし、平成29年6月14日に平成29年度の活動計画及び予算等を承認いただきました。

また、専門部会として「福島県農林水産業・農山漁村活力創造推進連絡会議」を3回開催し、「農林水産業・地域の活力創造プラン」やTPP等の経済連携協定に関する情報交換や対応策の検討、さらには国への要望等を行いました。



第1回 福島県農林水産業・
農山漁村活力創造推進連絡会議
(平成29年8月9日 福島市)

○ 地方推進本部会議等

各地方における新生運動の推進を図るため、県内7地方において、総会を開催したほか、地域の実情に応じたテーマを掲げ、生産者や流通業者、消費者を参集し、意見交換会を開催しました。



県北地方推進本部において開催した
総会(平成29年7月5日)

【地方推進本部の総会開催状況】

県北：平成29年7月5日開催	県中：平成29年6月21日開催
県南：平成29年6月27日開催	会津：平成29年6月30日開催
南会津：平成29年6月30日開催	相双：平成29年6月26日開催
いわき：平成29年7月20日開催	

○ 食の祭典「おいしい ふくしま いただきます！」フェスティバル

平成 29 年 9 月 9 日～10 日に本県の豊かな農林水産物、加工品等を多数集め、ふくしまの食の魅力を県内外の消費者に広く発信する「食の祭典『おいしい ふくしま いただきます！』フェスティバル」を開催しました。

【来場者数：約 48,000 名】



オープニングセレモニー



多くの来場者で賑わう会場内

(平成 29 年 9 月 9 日～10 日 郡山市「ビッグパレット」)

2 食の安全・安心運動

(1) 安全対策の徹底による食の安全確保

○ 放射性物質対策

安全な農林水産物の供給に向けて、放射性物質の吸収抑制対策やきめ細かな検査の実施を徹底しました。

【吸収抑制対策の実施状況】

水稲におけるカリ肥料施肥面積 59,006ha（作付面積対比 92.1%）

※平成29年度福島県営農再開支援事業実績(H29.12.13時点)より

【生産・流通・消費の各段階における放射性物質のきめ細かな検査状況】

区 分	検査数	検査機器配備状況
米の全量全袋検査	約 992 万件	202 台(パルトンパア式)
緊急時環境放射線モニタリング	18,139 件	11 台(Ge 半導体分析器)
あんぼ柿の全量非破壊検査	4,773,672 トレー 62,870 箱	33 台(非破壊検査機器) 10 台(個包装検査機)
自家消費野菜などの簡易検査	50,088 件	366 台
学校給食モニタリング	3,590 件	— (委託)

平成 30 年 3 月 31 日現在

【米全量全袋検査及び緊急時環境放射線モニタリングの実施結果】

(H29.4~H30.3)		検査数	基準値超過数	超過数割合
米全量全袋検査(平成29年産)		約992万件	0件	0.00%
モニタリング	野菜・果実(※1)	2,855件	0件	0.00%
	原乳	398件	0件	0.00%
	肉類	3,578件	0件	0.00%
	鶏卵	111件	0件	0.00%
	水産物	9,288件	8件(※2)	0.09%
	山菜・きのこ	2,111件	1件(※3)	0.05%

(※1)果樹のうち特定ほ場のクリを除く (※2)川・湖沼の魚種のみ (※3)野生山菜のみ



放射性物質の検査



米の全量全袋検査

○第三者認証GAP等の取得促進

農業については、環境と共生する農業の推進を図るとともに、認証GAP日本一を目指して「ふくしま。GAP チャレンジ宣言」を実施しました。

また、農水省ガイドラインに準拠し、放射性物質対策を含めたFGAP(ふくしま県GAP)認証制度を創設しました。

林業については、適正な森林管理による木材の流通を図るため、林業事業者等の森林認証取得に向けた取組を支援しました。

水産業については、MEL等、水産エコラベルの認証取得を支援しました。



FGAPのロゴマークと流通している認証農産物

平成 30. 3. 31 現在

○農業

【GGAP・JGAP・FGAP等取得件数：62件】

○林業

【FM認証（森林管理）：7事業者、認証面積6,303ha】

【CoC認証（加工流通過程）：16事業者（31社）】

（FSCとSGECの重複除く）

○水産業

【MEL生産段階認証：13件】

【MEL流通加工段階認証：7件】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県農業協同組合中央会、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会、福島県漁業協同組合連合会、福島県商工会議所連合会等では、独自に放射線の自主検査を実施し、安全・安心な農林水産物の供給を支援しました。



原木の非破壊検査

(2) 消費者の食への安心感の醸成

○ 放射性物質の検査結果の提供

放射性物質の検査結果のわかりやすい情報提供や消費者の放射線に対する正しい理解の促進に取り組みました。



ホームページ
「福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報」
(<http://www.new-fukushima.jp/>)

【新ホームページ「福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報」

平成29年度アクセス人数：約7,200人（H30.3.1開設）】

【旧ホームページ「ふくしま新発売。」開設時からの累計：約673万人

（H30.2末まで）】

○ 消費者対象イベントにおけるPR活動

県内で開催された各種イベントにおいて、新生運動のブースを設け、運動の取組等に関するパネル展示、農林水産業に関するクイズ、新生運動LINE公式アカウント及びメールマガジンのPR等を行いました。



「おいしい ふくしま いただきます！」
フェスティバルへの出展

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県消費者団体連絡協議会では、「食と放射能に関する説明会」や「食品表示、添加物、機能性表示食品」をテーマに研修会を実施しました。
- 公益社団法人福島県栄養士会では、小学生を対象に、県内の大型スーパーマーケットにて、店頭に並ぶ季節の野菜や果物を教材に、お買い物ゲームなどを通じた食育推進事業「5ADAY」を実施しました。

【参加者 1,376名】

3 生産再生運動

(1) 力強い農林水産業の生産体制の確立

○ 農業

震災及び原子力災害からの復興に向けて、生産量の回復や経営体の規模拡大による農業構造の強化等に取り組むとともに、意欲ある担い手の育成や女性農業者の活動支援に取り組みました。



栽培技術を学ぶ新規就農者

【認定農業者数：7,771 経営体（H28：7,730 経営体）】

【新規就農者数：221 人（3年連続200人超）】

【農地所有適格法人：384 法人（H28：359 法人）】

【営農再開面積：4,490ha（対象面積の25%）】

○ 林業

森林整備と放射性物質対策を一体的に進めるとともに、森林整備ボランティア活動や企業の森林づくり活動の支援等の実施により、県民が森林を守り育てる意識の醸成に取り組みました。

また、高性能林業機械の導入支援など素材生産の基盤整備を促進しました。



高性能林業機械による森林整備

【ふくしま森林再生事業の実施：42 市町村】

【企業の森林づくり協定の締結：11 社、13 協定】

○ 漁業

沿岸漁業の再開に向けた取組により、7年ぶりにアオノリが出荷されたほか、水揚げを再開した全ての市場が入札取引となるなど、試験操業は着実に拡大しています。

また、漁業技術を伝承するための研修や、漁業の魅力を伝えるための漁業体験等の支援により、漁業担い手の確保・育成に取り組みました。



再開した松川浦でのアオノリ養殖

【試験操業対象種：全ての魚介類（出荷制限魚種を除く）（H29.3.29以降）】

【操業再開した経営体数：523 経営体】

※平成 29 年 12 月末現在（H28：476 経営体）

○ 農山漁村

地域環境や地域コミュニティの維持・向上のため、日本型直接支払制度により、多面的機能の増進に寄与する共同活動を支援しました。

また、拡大傾向にある鳥獣被害の防止対策を推進し、農業の振興や地域の活性化を図りました。



共同作業による草刈り

【中山間地域等直接支払事業協定数：1,171 件、15,229ha】

【有害鳥獣による農作物被害額：1 億 6,815 万円（H28 年度）】

○ 農林水産業再生セミナー（H30.1.22）

農林漁業者が夢のもてる農林水産業の実現に向けて、農林水産業の生産性の向上と農林漁業者の所得拡大のためのセミナーを開催しました。



セミナーの様子 郡山市

開催テーマ「知的財産による産地のブランディングを考える」

講演 1 「地理的表示（GI）保護制度の概要と GI を活用した産地づくり

講演 2 「地域団体商標制度について～制度の概要と地域ブランド化～」

参加者：84人

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県農業協同組合中央会、福島県中小企業団体中央会、福島県食品産業協議会は共催で「アグリカルチャー&ビジネスマッチング交流会」を開催し、県内の様々な地域の力（人材・資源・伝統）を活用した魅力ある商品づくり、異業種相互交流による新たなビジネスモデルづくりを促進するため、実需者等とのマッチングの場を創出し、地域産業6次化の推進を図りました。
- 公益財団法人福島県農業振興公社では、効率的で安定的な経営を育成するため、意欲ある経営体へ農用地の集積・集約化を行いました。
- 福島県農業青年クラブ連絡協議会では「平成29年度福島県農村青年会議」を開催し、青年農業者による生産技術向上のためのプロジェクト活動の成果や農業に関する意見発表会、外部講師による講演会を実施しました。

(2) ふくしまブランドの回復・強化

○ ふくしまの恵みイレブン

「ふくしまの恵みイレブン」品目等の作付拡大や県オリジナル品種の活用により収益性の高い産地づくりに取り組みました。

特に、水稲については、中山間地域向けの新品種「里山のつぶ」の販売が開始されました。オリジナル品種「天のつぶ」と併せて生産拡大に取り組みました。

【食味ランキング（（一財）日本穀物検定協会発表）における

県産米の特A獲得数：4個（H28：3個）】

【「天のつぶ」作付面積：5,303ha（H28は5,073ha）】

【「里山のつぶ」作付面積：229ha】

【園芸品目施設化支援件数*：ハウス158棟、かん水同時施肥システム等18か所】

*「産地パワーアップ事業」、「元気な産地づくり支援事業」及び「チャレンジ
ふくしま水田フル活用緊急対策事業のうち水田活用型園芸産地緊急育成事業」

【きのこ原木等の購入支援：原木約17.3万本、おが粉約26.6千m³】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県食品産業協議会では、会員事業者の国内及び海外展示会への出展に対し、補助を行い、販路開拓を図りました。
【国内出展11社、海外出展3社】

4 風評払拭・消費拡大運動

(1) 消費者の県産農林水産物に対する理解促進

○ 効果的なプロモーションの展開

「ふくしまプライド。」テレビ CM 等により県産農林水産物の魅力と生産者の誇りを広く発信するとともに、消費者等に直接魅力を訴える「ふくしまプライドフェア」を開催するなど、消費者の理解促進を図りました。

○ 販路拡大への取組

多様な販路の確保として、新たな輸出技術の導入や商談会への助成、県産農林水産物の魅力を全世界に伝えるアニメーション「食べちゃったっていいのにな！」の公開など、海外へのプロモーションを行い、県産農産物の風評払拭を図りました。



トップセールスの様子

○オンラインストアを活用した消費拡大

県産品の新たな販売ルートを確保するため、オンラインストア（アマゾン、楽天、ヤフー）で販売促進キャンペーンを実施しました。



「オンラインストアによる販売促進キャンペーン」記者発表会

【トップセールスの実施状況：27回】

【CM 好感度調査結果：新 CM24 作品中、第2位（お米編）】

【「食べちゃったっていいのにな！」視聴回数：約 260 万回】

【オンラインストア販売額：15.4 億円】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県農業協同組合中央会では、「ふくしまキッズ博 2017」や「東京都食育フェア」等で県産農畜産物の安全安心の取り組みを紹介し理解促進を図りました。
- 福島県酪農業協同組合では、「福島ホープス 酪王マッチデー」や「第 24 回ふくしま酪農まつり」等で消費者に対し福島県の酪農と県産牛乳の安全性をPRしました。
- 公益財団法人福島県森林・林業・緑化協会では、県内の親子を対象にきのこ生産現場の視察やきのこ料理の体験等を行う「夏休み親子キノコのふしぎ体験ツアー」を開催し、きのこに対する理解促進を図りました。
- 福島県農業青年クラブ連絡協議会では、第 27 回ふくしま農見本市を開催し、FCT24 時間テレビチャリティー募金活動との協賛により、餅つき体験、農産物や加工品の販売、農業青年クラブの活動の紹介を行い、県産農産物の安全性と魅力を一般消費者にPRしました。
- 福島県漁業協同組合連合会では、「ふくしまおさかなフェスティバル」において、県産水産物の安全性をPRするとともに、試験操業で漁獲された水産物を販売し、消費拡大を図りました。
- 福島復興局（復興庁）では、震災からの復興に向け、国の支援事業を活用して新たに開発された「スイーツ商品」をHPに掲載し、新しいスイーツを通して福島魅力を広く情報発信しました。



平成 29 年 8 月 5 日



平成 29 年 10 月 21 日

(2) 地産地消による県産農林水産物の消費拡大と食育の推進

○ 県産農林水産物の消費拡大キャンペーン等の展開

県産農林水産物や加工品を積極的に販売・使用している販売店等を「がんばろう ふくしま！」応援店として登録するとともに、応援店の活動を支援しました。また、地域の特色を活かした「おいしいふくしま いただきます！」キャンペーンを実施するなど、県産農林水産物の販売促進活動を展開しました。



「おいしいふくしま いただきます！」
キャンペーン」

(平成 29 年 9 月 23 日 富岡町)

【がんばろう ふくしま！応援店登録数：2,293 事業所】

【おいしいふくしま いただきます！キャンペーン：32回】

○ 地域産業6次化の推進

農林漁業者の所得向上や雇用創出につながる地域産業6次化の取組として、地方の特色を活かした6次化商品の開発支援や研修会の開催などを行いました。

また、6次化商品の新たなブランドとして「ふくしま満天堂」を創設し、商品力の向上と販路の開拓・拡大を一体的に支援しました。



【「6次化新商品カタログ」掲載商品数：362商品（H28は370商品）】

【「ふくしま満天堂」登録商品：175商品】

○ 学校給食等における県産食材の活用推進

食育体験や交流、地域の食文化の継承等の活動を実践する方々を「食育実践サポーター」として登録するとともに、子どもを対象とした食育の推進に取り組む学校や地域団体等に「食育実践サポーター」を派遣し、県内における食育実践活動の普及拡大を促進しました。

また、県内の学校給食や病院食等における県産農林水産物の積極的な活用を促し、県産食材に対する理解促進を図りました。

【食育実践サポーター登録人数：198人】

【学校給食等地産地消事業実施件数：11市町村・63校（学校給食）
5市町村・10病院（病院食）】

【「いただきます。ふくしまさん」事業実施件数：5市町村・27校】

【学校給食における地場産物利用状況：35.6%（H22は36.1%）】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 公益社団法人福島県畜産振興協会では、本宮市家畜市場において、うつくしま福島畜産 mother's クラブ e-EN の共催で、初セリイベントを開催し、畜産物の安全性 PR や畜産物の消費拡大、購買者等への励ましを目的として、県産食材を使用した牛鍋を来場者に提供しました。

5 情報発信運動

(1) 県内外への情報発信

○ ICT等を活用した情報発信

構成団体の取組や、各地域で頑張っている農林漁業者の声や取組等を、新生運動のホームページやLINE公式アカウント、メールマガジン等のICTを有効に活用した情報発信に取り組みました。

また、平成28年度より日本最大の料理レシピサイト「クックパッド」の福島県公式キッチンを開設し、県内の旬の農林水産物や地域の特産品を使用したレシピを生産者等から収集の上掲載することで、県産食材の魅力発信を行いました。



クックパッド
福島県公式キッチン
「はら食っち～な ふくしま」

【LINE公式アカウント友だち登録件数：3,422件（H28：2,805件）】

【メールマガジン登録件数：933件（H28：948件）】

【クックパッド福島県公式キッチンアクセス数：約2,730,000件（累計）】

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県農業協同組合中央会では、大相撲東京場所において、優勝力士への県知事賞副賞として県産農畜産物（天のつぶ、牛肉、野菜等）の贈呈を行いました。
- 公益社団法人福島県畜産振興協会における「畜産福島」、福島県土地改良事業団体連合会における「土地改良だより」、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会における「林業福島」など、構成団体、地方推進本部等が発行する広報誌等を通じて、本県農林水産業の復興に関する情報を発信しました。

(2) 世界へ向けた情報発信

○ 海外のイベント等でのPR活動

海外等で開催される国際的なイベントや多言語化に対応したホームページなどにおいて、福島県の復興の状況や県産農林水産物の安全確保に向けた取組を紹介しました。

【構成団体等における特徴的な取組】

- 福島県商工会議所連合会では、福島県在住の外国人留学生に県内の観光や様々な体験を通じて福島県を理解いただくとともに、風評被害払拭・風化防止に向けて、各参加者独自にSNSで情報発信を行ってもらおう見学旅行を実施しました。